

前回委員会以降の経過等について

(1) 第2回検討委員会の結果

- 第2回検討委員会では、骨子案について、次のとおりご意見をいただきました。

※数値は取組みの方向性の項番

項目	各委員からの主な意見	発言	意見への対応
基本理念	<ul style="list-style-type: none"> ・県民・市民の生活を守るという視点が必要である。 ・水を送り続けるための目的が必要である。 ・経営の持続性の視点を入れたほうが良い。 	亀山委員 遠藤委員 福田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・基本理念に反映 ・基本理念に反映 ・基本理念の説明文で言及
将来像	<ul style="list-style-type: none"> ・30年後という計画期間の設定は妥当である。 ・「報告書」（平成22年度）から9年が経過している。企業団と構成団体の共通目標である“基盤強化”に向けた「水道システムの再構築」による効果について、構成団体と調整し、示していただきたい。 ・施設整備の推進と経営基盤の強化は両立しえない。 	石井委員長 長岡委員 出雲委員	<ul style="list-style-type: none"> ・将来像に反映 ・今回委員会で報告 ・将来像の表現に反映
水道システム最適化	<ul style="list-style-type: none"> ・「水源確保」は新規の水源開発を行ライイメージがある。原水確保」としたほうが良い。 ・企業団施設利用率増加に備え、配分水量全量を供給できる施設整備を取り上げてほしい。 ・「寒川事業のあり方」についての記載が必要である。 	渡部委員 遠藤委員 亀山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・I-1②に反映 ・I-1①の中で対応 ・I-1に反映

前回委員会以降の経過等について

(1) 第2回検討委員会の結果

(前ページからの続き)

※数値は取組みの方向性の項番

項目	各委員からの主な意見	発言	意見への対応※
アセット マネジメント 業務効率化	<ul style="list-style-type: none"> 状態監視などを踏まえた更新や延命化の検討が必要である。 行革の視点は必要である。 委託化を進める一方で守るべき技術も必要である。 効率化や災害対応として、AI・ICTの活用が不可避である。 	渡部委員 龜山委員 成田委員 石井委員長	<ul style="list-style-type: none"> 実施計画に反映 Ⅲ-1「既存業務の見直し」等として反映 Ⅲ-2人材育成に反映 実施計画に反映
人材	<ul style="list-style-type: none"> 効率化により組織が縮小しても人材育成は必要である。 人材確保について具体的手法の明確化が必要である。 人手不足への対応策として官民連携について議論してほしい。 構成団体と企業団で技術面での人材共有を検討してはどうか。 	遠藤委員 成田委員 福田委員 出雲委員	<ul style="list-style-type: none"> Ⅲ-2に反映 実施計画に反映 Ⅲ-1に反映 実施計画に反映
その他	<ul style="list-style-type: none"> 既に「低コスト」は実現されている。「最適コスト」という表現にしたほうがよい。 国外事業者との連携協力について表現を検討した方がよい。 構成団体の基盤強化の視点を加えてほしい。 水質管理目標値は、現状の浄水処理を前提としたものと理解した。高度浄水処理など新たな処理方法の検討も必要である。 	鎌田委員 渡部委員 龜山委員 鎌田委員	<ul style="list-style-type: none"> 表現を修正 表現を修正 将来像の説明に反映 I-1に反映

前回委員会以降の経過等について

(2) 企業団議会での意見

■ 議会11月定例会において、新ビジョンの検討に関連するご意見をいただきました。

※数値は取組みの方向性の項番

項目	意見・質問の要旨	意見・質問への対応※
基本理念	<ul style="list-style-type: none"> 水は命を守るライフラインである。「命を守る」という記載を検討してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「くらし」という表現に含むことをビジョン本文で説明
水道システム再構築	<ul style="list-style-type: none"> 上流移転は省エネ、防災の観点から重要である。議論してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 構成団体との議論継続
災害対策	<ul style="list-style-type: none"> 今回の台風の教訓を踏まえ災害対応の強化に取り組んでほしい。 激変する環境を踏まえ、危機管理計画の見直しや構成団体との情報伝達（共有）などを検討すべきである。 今回の台風は企業団と構成団体が個別対応するレベルを超えたケースである。全体で意見交換してほしい。 停電対策は優先的に取り組むべき。非常用燃料の備蓄量を検討してほしい。 増加するダムの浚渫費用の負担に備え、財源確保について検討すべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> Ⅱに考え方を示す 長期的な課題は、実施計画に反映 5事業者の中での企業団の取組を記載 構成団体の状況を踏まえ検討 長期的課題として検討
経営基盤強化	<ul style="list-style-type: none"> 投資額の適正規模を算出する上で、施設管理システムと財務会計システムの固定資産のデータ連携（資産のIDの統一）を検討すべきである。 長期的な視点での企業債残高の適正規模の考え方について検討してほしい。 働き方改革について今後どのように取り組んでいくのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 実施計画期間に対応 Ⅲの中で検討 Ⅲの実施計画で対応

前回委員会以降の経過等について

(3) 企業団内部での検討

- 検討委員会後、プロジェクトチーム(PT) 会議や意見交換会などを実施し、取組の方向性に関する意見を聴取しました。

- ・PT会議（8月29日開催）
- ・職員との意見交換会（全所属対象10月1日（2回）開催）
- ・各所属での意見交換（全14課で10月～11月実施）テーマ「30年後の各所属の将来像」

項目	意見の要旨
水道システム 再構築	<ul style="list-style-type: none"> ・寒川事業のあり方の検討 ・広域水質管理センターの将来像 ・上流取水、創設系導水トンネルの維持
施設維持管理	<ul style="list-style-type: none"> ・管路整備の考え方
災害対策	<ul style="list-style-type: none"> ・リスク対策としての高度浄水処理の導入
経営基盤強化	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の経営姿勢の考え方 ・事業量増加を見せた効率化の取組み ・業務プロセスの簡素化 ・採用職種と業務経験との関係性 ・維持管理業務を最小化するための施設整備 ・効率性を高めるために職員が行う業務の精査
環境配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・健全な水循環の維持・回復に向けた考え方
多様な関係者	<ul style="list-style-type: none"> ・民間企業の強みを活かす発注方法などの導入
社会環境対応	<ul style="list-style-type: none"> ・技術革新への対応に向けた考え方

※聴取した意見のビジョンや取組みの方向性への反映状況は、各所属にフィードバックしています。